

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 7月13日

【評価実施概要】

事業所番号	4071700415		
法人名	有限会社 サポートハウス		
事業所名	グループホーム いこいの家		
所在地 (電話番号)	〒822-0003 福岡県直方市大字上頓野4676番地の24 (電話)0949-26-7809		
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴二丁目5-27		
訪問調査日	平成21年7月9日	評価確定日	平成21年7月20日

【情報提供票より】(平成21年6月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年8月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8 人	非常勤 0 人 常勤換算 7.6 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	改築 8年(築33年)
建物構造	鉄筋コンクリート一部木造 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 ~ 36,000 円	その他の経費(月額)	光熱水道料18,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円)	有りの場合 償却の有無	有(6ヶ月)
食材料費	朝食	300 円	昼食 600 円
	夕食	500 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,500 円		

(4) 利用者の概要(平成21年6月12日現在)

利用者人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低 79 歳	最高 91 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・八幡慈恵病院	・永松内科胃腸科医院	・山田歯科医院
---------	---------	------------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

工業団地に隣接した緑豊かな自然環境の一用に、一般住宅改造のグループホーム「いこいの家」がある。竹林の中の駐車場から季節の花が咲き乱れる玄関から、中に入ると、手入れの行き届いた金魚の水槽や生け花が飾られ、家庭的で落ち着いた雰囲気である。リビングでは、利用者と職員が一緒に昼食の下ごしらえや、歌を歌う等自由にのびのびと過ごしている。管理者の介護に対する熱い思いを理解した質の高い職員達が、利用者一人ひとりの尊厳を大切にし、地域の中でその人らしく暮らせるような支援を実践している。課題である24時間の医療体制も確保の見通しで、利用者の健康管理も万全である。今後は現状に満足することなく、開設8年の経験と実績を基にグループホーム全体の発展に尽力されることを期待する。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点は食のリハビリに関する点であったが、評価結果を職員全員で回覧し、職員一人ひとりが自覚を持って取り組んだ結果ほぼクリアできている。今後は「地域住民の協力を得て、夜間を想定した避難訓練」、「利用者の状態に応じた水分摂取量の記録はあるが、日常的に利用者一人ひとりの水分摂取記録」等が望まれる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員でつくり、会議で話し合い、管理者が取りまとめて作成している。管理者や職員は外部評価の意義を理解し、評価結果を回覧し、ホーム運営と介護サービスの質の向上に繋げる工夫をしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	会議は2ヶ月毎に曜日を決めて開催している。会議には家族、地域代表、行政職員、ホーム代表、職員が参加し、ホームの現状、方針、予定や情報交換、要望、質問等、時間が足りないくらい活発に意見交換ができ、双方向的な会議としてホームの運営に反映されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	玄関には、管理者手作りの意見箱を設置し、内部、外部の苦情相談窓口も掲示している。レクリエーションを兼ねた家族会を年2回開催し、家族と職員が親しく話せる場を作り、相談や要望を聴いて、ホーム運営と利用者一人ひとりの介護サービスの取り組みに反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	開設時から町内会に加入し、現在管理者が副会長として活動しているので、町内の行事や様々な情報が把握でき、清掃活動や各種行事等に利用者と職員が積極的に参加出来ている。また、地域のボランティアの協力で、広い庭の剪定や定期交流会(演奏や踊り)の提供や野菜の差し入れなど地域交流も活発である。今後は小・中学校生の体験学習や幼稚園児との交流など企画し、実現に向けて努力している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	「利用者職員は地域の中で、共に生活のパートナーとして、穏やかで安らぎのある自由な暮らしを優先し、一人ひとりの尊厳を大切に、その人らしい生活が送れることが出来る環境づくりを目指す」というホーム独自の理念を掲げている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	管理者職員は、毎朝のミーティングで理念を唱和し、内容を理解して、実践に向けて取り組んでいる。職員とのチャリングでは長い理念であるが、完璧に暗唱し、内容についても十分理解が出来ている。		
		管理者職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	開設時(平成13年)から町内会に加入し、町内行事(清掃、文化祭、会合)に積極的に参加し、今年はおオーナーが町内会副会長として活動し、地域との交流が図られている。また、小中学校の生徒の体験学習の受け入れや、幼稚園児との交流も計画されている。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	職員一人ひとりが自己評価を記入し、話し合い、管理者が取りまとめて作成している。外部評価の狙いや活用方法を職員が理解し、評価結果を踏まえて介護サービスの質の向上を目指している。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	会議は2ヶ月毎に開催し、家族、地域、行政の代表が活発に意見交換し、貴重な情報や意見を得て、ホームの運営に反映させている。また、外部評価の結果と課題を報告し、委員に改善に対する取り組みをモニターしてもらっている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			
6	9	市町村との連携	運営推進会議を通じて、市町村との関係がより良好になり、情報交換や相談ごとなどで、訪問する機会が増えている。今後は開設8年目を迎え、蓄積したノウハウを活かし、介護相談事業の窓口として直方市と協働していくことを企画している。		
		事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	権利擁護に関する制度の理解活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在該当者はいないが来たるべき時を想定し、研修会に参加し、内部学習会で職員全員が共有し、利用者や家族に説明し、理解してもらえる体制がある。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員は、家族が毎月支払にホームを訪問する際に、金銭管理を書面で説明し、利用者の近況や心身の状況を報告し、要望や意見等を聴き出している。また、利用者の状態変化等には、家族に連絡し、相談して対応している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に、相談箱を設置し、外部の相談窓口も明示している。また、家族会を設立し、要望や苦情が出やすいように雰囲気づくりをしている。家族の意見はホーム運営に反映するように工夫している。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は時々あるが、利用者のダメージを防ぐため、引き継ぎの時間を十分に取り、スムーズに移行できるように職員全員が日頃から利用者や馴染みの関係をつくり、利用者や家族が安心して過ごせるように努力している。		
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障	職員の採用は性別、年齢の制限はない。管理者は半年毎に職員と個別に面談し、悩みや心配事の相談に乗り、ホーム運営に反映させ、職員が働きやすい職場となるように工夫している。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりこんでいる	人権研修の外部研修会に参加し、資料を持ち帰り、内部研修会を開き、職員全員で学習し、参加できない職員は資料を回覧して全員で共有している。		
5. 人材の育成と支援					
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会に加入し、毎月の研修会に職員が交代で参加している。また、ホーム内で新人研修や習熟度に合わせた学習会を開き、職員一人ひとりの技術の向上を図っている。資格取得のための勤務ローテーションを作成し、全員で応援する体制がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、職員が交代で毎月のブロック会議や研修会に参加し、情報交換と技術の向上を目指して積極的に取り組んでいる。管理者は協議会の理事として、これからのグループホームの方向性等を協議する等、地道な活動を続けている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者と家族に来訪してもらったり、自宅を訪問して、少しずつ馴染みの関係を築きながら、入居希望者や家族と信頼関係をつくり、入居してもらっている。サービス開始後は他の利用者や職員と一日も早く馴染みの関係になれるように、職員一人ひとりが、思いやりと気配りを持って支援している。		
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者は「共に過ごし、学び、支え合う」関係を築くために家族の一員として、孤独に陥りがちな利用者と暮らしながら、心配したり、心配されたりの関係で、利用者本来の個性や力を発揮できるように支援している。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者や職員は「認知症だから聞くのは無理」と決めつけず根気よく、利用者一人ひとりの思いや意向を聞き取り、支援している。また、意向表出困難な利用者には過去の履歴や家族、知人等に相談したり、利用者の独り言など記録しておき、利用者本人の視点に立って取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者がホームでより良く暮らすための課題やケアのあり方について本人や家族からの気付きや意見、アイデアを出してもらい、提携医、管理者、職員で話し合い、利用者主体の暮らしを反映した介護計画を作成している。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	地域密着型サービスの特徴は、小規模できめ細かいケアができることを職員が理解しているので、介護計画の定期見直しにとらわれず、心身の状態変化に応じて臨機応変に介護計画の見直しを家族と相談しながら作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者本人、家族のその時々状況や要望に合わせ、ショートステイ、通院、往診、ドライブ、外食、墓参り、帰宅支援等、ホームの多機能性を活かして、利用者本人と家族の暮らしを守る支援体制がある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人と家族の希望を優先して、かかりつけ医の受診の支援をしている。また、ホーム提携の医療機関に2週間毎に往診してもらい、24時間対応ができる体制が出来つつある。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方やホームの対応について、早期から本人、家族、かかりつけ医等関係者と話し合いを繰り返し、本人、家族の意向を確認し、対応方針の共有化を図り、急変時に対応できる体制を確立している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者と職員は利用者一人ひとりに、人生の先輩として、尊厳をもって接し、人前であからさまに介護したり、誘導の声かけをしないように、日頃から気をつけ、プライバシーの確保を図っている。また、個人情報の資料は鍵のかかるロッカーで保管している。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの方針として、利用者一人ひとりの生活のリズムやその日に本人がしたいと思っていることを大切に、体調に配慮して、本人が望む過ごし方の支援をしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者職員は、ホーム周辺で取れる季節の食材を収穫してきて利用者の、その日の体調に合わせて、調理や配膳を手伝ってもらい、同じ料理を全員で食べ、和気あいあいとした楽しい食事風景である。職員は利用者全員が自力で、食事が出来るように一部介助しながら自立に向けた支援をしている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は夕食前にしているが、利用者の希望により自由に選択できる。利用者一人ひとりに合わせて毎日の入浴も可能である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	ホームでは利用者一人ひとりの日々の暮らしが、楽しみや張り合いのあるものになるように、職員主導のマンネリ化に気をつけ、家事作業、園芸などメリハリの効いた暮らしができるように支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	散歩は天候が許す限り日課としており、ドライブ、買い物、墓参り、家族の協力を得て外出や外泊等、日常的に戸外で利用者が生き生きと気持ちよく過ごせるように配慮している。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	日中は玄関の鍵はかけていない。管理者と職員は鍵をかけて、外に出ることが出来ないことがもたらす利用者の心理的な不安、閉塞感等の異常性を理解し、利用者の安全を配慮して鍵をかけない工夫に取り組んでいる。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	災害対策のホーム独自のマニュアルを作成し、年2回利用者と職員と一緒に避難訓練を実施している。運営推進会議を通じて地域住民の協力を得ての避難訓練を計画している。また、災害時の非常食、飲料水、等の備蓄も用意している。		消防署と地域住民の協力を得て、夜間を想定した避難訓練の実施が望まれる。
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	料理が好きな職員が管理栄養士にメニューを見てもらい、一日の摂取量を1,500キロカロリーを目安として、栄養バランスを考え、糖尿病、嚥下、刻み食、とろみ等考慮して対応している。食事摂取量は記録し、健康管理に活かしている。水分も1,000～1,500CCは平均して摂取している。		利用者一人ひとりの水分摂取量は一日平均1,000～1,500CCは取っているようである。利用者の飲み込みや体調不良時は個別に水分摂取記録を取っている。今後は、利用者全員の水分摂取記録を取ることが望まれる。
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	広い民家を8年前に改築したアットホーム的な雰囲気グループホームで何もしなくても家庭的な雰囲気が漂っている。ホーム周囲の緑に囲まれた自然環境の中で、利用者は季節を五感で感じ、鳥や虫の鳴き声が心を和ませ、利用者は居心地の良い暮らしを送っている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室は利用者本人と家族の希望で床を畳やじゅうたんにして、本人の馴染みの物を持ち込み、毎日の生活を居心地よく過ごせるように管理者、職員も交えて支援している。		